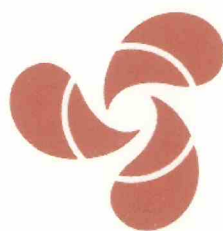


# 2023 年度 事業報告書・収支決算書

---

期間：2023年4月1日～2024年3月31日



特定非営利活動法人  
せんだい・みやぎNPOセンター

## <目次>

はじめに . . . . .	2
I. 中期計画（2022～2024 年度）進捗報告 . . . . .	4
2023 年度 事業報告 . . . . .	10
II. 講師派遣・各種委員会等 . . . . .	24
III. 法人の運営に関する事項 . . . . .	26
IV. 2023 年度 決算報告書 . . . . .	30

## はじめに

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター  
代表理事 渡 邊 一 馬

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター（以下、当センター）は、2023年度事業を無事に終え、2024年度事業がはじまっています。会員の皆様をはじめ、多くの方々からいただいたご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

仙台市と多賀城市の両市民活動サポートセンターは、公共施設として安定運営を行うと共に、各々地域にあわせた事業展開を行っています。

2023年度は、多くの市民が活動の相談や施設の利用に訪れ、新型コロナウイルス感染症発症以前の賑わいを取り戻しました。両センターとも、すでに活動をしている方々の支援はもちろん、新しい担い手が増えていくための事業を展開。仙台では「仙台若者まちづくりラボ」など、他の主体が実施している事業への協力や参画、そして、プロボノのコーディネートを実施。多賀城では「クリスマス雑貨市」を中心に自主事業を活用して新たな地域の担い手を発掘、育成する取り組みが進みました。

本部も、せんだい・みやぎソーシャルハブの運営や他団体との連携など、いくつかの事業を展開。当センターとしては、2023年度も黒字決算となり、財政状態も健全化いたしました。この間支えていただきました会員の皆様に、改めて感謝申し上げます。

さて、2023年度は中期計画（2022～2024年度）の中間地点です。職員主導で作成した中期計画で定めた3つの軸に基づき事業を進めています。

1つ目の軸「多様な市民が参加出来る環境づくり」は、地域課題の発掘と解決を促す共創プラットフォーム「せんだい・みやぎソーシャルハブ」の運営と両センターの取り組みを連動させ活動を行っています。1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」を受けて、私たちはどのようなことが出来るのかを話し合う機会も設けました。また、地域や活動現場にこちらから赴いてお話を伺う機会も一気に増え目標を達成しました。

2つ目の軸「市民の活動を支えるための資源提供」は、事業担当者を新たに迎え入れ、事務局体制の構築が進みました。そして、休眠預金活用事業「地域の共助力・起動力を高める地域中間支援組織による防災・災害支援事業」への採択が決まり、市民の活動を支える体制整備がはじまりました。しかし、人員体制が整

ったのが年度後半だったこともあり、プロボノコーディネート事業は目標に到達できず、引き続き本部体制強化を中心に進めていくこととなります。

そして、3つ目の軸「市民の想いの伴奏ができる人材の育成体制の構築」については、スタッフ不足のため、ゆっくりではありますが育成体制の構築を進めました。理事陣や管理職で育成体制の検討を行い、2024年度から基本給をベースアップすることができました。

中期計画で掲げた「持続可能な市民社会を実現するための、市民活動の取り組み承継のしくみづくり」を達成するため、本部体制の強化を進めていきます。両センター長に事務局次長を兼任してもらい、また、今年度はもう1名本部専任のスタッフを採用し、本部事務局を強化します。

2023年8月、故加藤哲夫さんの十三回忌の命日にあわせ、有志の皆さんと市民社会のあり方を考える場を持ちました。加藤さんが関係者に残した宿題は、普遍的な宿題でもあることを再確認しました。私たちはこれからも加藤さんの宿題に向き合い、「市民社会の実現」に向けて引き続き活動を行います。

今後も皆様からのご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

2024年 6月15日

## I. 中期計画（2022～2024 年度）進捗報告

### 〔目的〕

持続可能な市民社会を実現するための、市民活動の取り組み承継の仕組みづくりを目的に、「多様な市民が参加できる環境づくり」「市民の活動を支えるための資源提供」「市民の想いの伴奏ができる人材の育成体制の構築」を行う。

### 〔実施概要〕

中期計画の中間年度として、各サポートセンターの取り組みと「ソーシャルハブ」の運営を連動させ、地域や社会課題の可視化と市民活動に参加する主体の増加を狙った。また、本部機能と人材育成体制の強化も進めてきた。以下、中期計画で掲げた目標毎に進捗を記載する。

※2023 年度途中、進捗を踏まえていくつかの小項目において目標の変更を行った。目標を修正した項目には☆マークを付与している。

### □目標 1 多様な市民が参加できる環境づくり

#### 1-1 地域へ出て積極的に、社会課題や解決のための取り組みをヒアリングする。

項目	2021 年	2022 年 目標	2022 年 結果	2023 年 目標	2023 年 結果	2024 年	その後
ヒアリング 合計数	延べ 110 団体 程度	130 団体 程度	延べ 128 団体 施設相談件数 仙台：437 件 多賀城：220 件	150 団体	延べ 189 団体 施設相談件数 660 団体	200 団体	連携してヒア リングができ ている体制へ
ヒアリング 情報発信数	延べ 90 件 程度	110 件	111 件	130 件	284 件	180 件	
会議等の参 加による	30 回	40 回	60 件	50 回	107 回	50 回	

両施設で意欲的にアウトリーチが増え、目標達成。施設での対応を含めた相談を含めると延べ 849 件に。ヒアリング結果は、WEB や新聞等で発信しその合計は目標の 2 倍以上となった。

#### 1-2 聞き取った課題を可視化するとともに、放っておくと消えてしまう活動の承継に向けた支援と市民活動に取り組もうとする人へのきっかけづくりを重点的に行う。

項目	2021 年	2022 年 目標	2022 年 結果	2023 年 目標	2023 年 結果	2024 年	その後

課題の可視化数	-	3件	3件	☆既存3件 新規1件	既存3件 新規3件	10件	毎月1件程度 の可視化 を行う
活動承継への取り組み	-	15団体の リストア ップ	活動承継 のみでは 把握でき ず	☆リストア ップ及び プロボノ 案件化5件	10件	取り組み開 始15団体 新規20団 体	
セミナー等の開催	4コンテ ンツ程度 保有	コンテ ンツ開発	開発中 1件 開始4件	新規コン テンツ開始	開始4件	新規コンテ ンツ横展開	
参加者数	-	-	62人	☆100人	367人	150人	

課題の可視化数の目標は達成したものの、可視化した課題に対する市民参加を促すところまでには至らなかった。また、2022年度に可視化した案件についても足踏み状態であった。活動継承支援は目標を達成。プロボノマッチングは2024年度に持ち越している。参加者数は大幅に達成。

- 1-3 人を集める：多様な市民が自らの問題意識や資源を持って集える地域課題解決のプラットフォームを立ち上げることで、市民が気軽に課題にアプローチできるようにする。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024 年	その後
情報交換会の開催 (ソーシャルハブ含む)	12回	15回	21回	20回	39回	25回	開催された内容が適切に共有されている
参加者数(延べ)	200人	300人	421人	☆500人	492人	500人	会社員等を積極的に
新たな活動をはじめた人数	未把握	20人	28人	50人	212人	50人	

情報交換会は、他団体と共催型で行うなど大きく目標を達成。参加者数は、上方修正した目標にわずかに届かなかったものの、ボランティア参加など新たに活動を開始した人数は、目標を大きく超えることができた。

- 1-4 人をつなげる：市民・行政・企業・学校などさまざまなセクターが協働し、社会や地域の課題に関する情報交換や解決に向けた支援策の検討・実行を行う場を運営することで、多様な主体をつなぐ。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年	その後
情報交換会の開催(再掲)	12回	15回	21回	20回	39回	25回	月2回程度開催
ハブ上の案件スタート数	2件	3件	2件	5件 (プロボノ 案件含む)	8件	10件	
情報交換会に持ち込まれる困り事や課題数	0件	2件	4件	5件	5件	10件	毎月2件程度持ち込まれている状態
参加主体数	NPO10	NPO10 企業10社	NPO33 企業20社	☆NPO 40 企業30社	NPO 59 企業35社	NPO 30 企業30	参加主体が新たな参加主体

		行政 3 (担当者) 教育機関 2 校	行政 7 部 署 教育機関 1 校	行政 10 教育機関 5 校	行政 32 教育機関 15 校 自治会 19 その他 20	行政 7 教育機関 10 校	を招き入れて くる状態
PF 事務局体制 (当センター及 び連携団体よ り)	専従 1 名 サポー トメン バー 7 名	専従 1 名 サポー トメン バー 8 名	専従 1 名 サポー トメン バー 7 名	☆専従 1 名 コーディネ ーター 2 名 サポートメ ンバー 5 名	専従 1 名 コーディネ ーター 3 名 サポートメ ンバー 9 名	専従 3 名 サポートメ ンバー 8 名	サポートはプロ ボノ含む

情報交換など「場」の運営数は目標を大きく達成。「場」が増えたことで参加主体数も大幅達成。個人参加も多く、今後は個人ベースでプロジェクトに参画いただくとともに、所属組織とも連携できるようにしたい。なお、事務局体制の拡充は、年度後半に人員数は目標を達成した（実質化は 2024 年度から）。

## □目標 2 市民の活動を支えるための資源提供

### 2-1 当センターが中心となって市民の課題解決のための社会資源（特に人材）を集める。

項目	2021 年	2022 年 目標	2022 年 結果	2023 年 目標	2023 年 結果	2024 年	その後
プロボノ登録人材数	0 人	20 人	0 人	☆30 人	8 人	100 人	毎年 3 割程度が出入り
延べ派遣数	0 件	20 件	0 件	☆20 件	14 件	200 件	
メーリングリスト 登録者	0 人	150 人	未開設	☆100 人	38 人	500 人	
連携企業数	0 社	10 社	2 社	☆10 社	3 社	30 社	

事務局体制構築に時間を要し、人材や連携企業の開拓まで進まなかった。プロボノ登録数は目標の 4 分の 1 だったが、延べ派遣数は目標の 3 分の 2 を達成できた。また、ソーシャルハブのメーリングリストでは、情報や意見の交換が行われはじめている。

### 2-2 ソーシャルハブを含めた本部機能強化のため、企業の賛助会員などを集める。

項目	2021 年	2022 年 目標	2022 年 結果	2023 年 目標	2023 年 結果	2024 年	その後
賛助会員数	26	企業 10 社、 個人 40 人	企業 0 社 (団体 11) 個人 14 人	☆企業 10 社 個人 30 人	企業 0 社 団体 11 個人 12 人	企業 30 社 個人 150 人	認定 NPO 法人を めざす
資金調達額	400 万円	600 万円	約 350 万円	☆600 万円	900 万円	1500 万円	個別案件支援は 別で調達予定
本部スタッ フ拡充	-	-	事業担当ス タッフを 1 名増強	☆本部スタッ フ 1 名増	本部スタッ フ 2 名増	事務局安 定化	

				強+管理職 ラスの兼任	強、事務局 次長の選任	
--	--	--	--	----------------	----------------	--

ソーシャルハブ運営担当として2名を新規採用。また、休眠預金活用事業に採択され2024年度から3ヶ年合計3000万円の資金調達が実現（2024年度分として約900万円）。なお、両施設のセンター長を事務局次長兼任とし、本部機能の強化を行ったが、現場スタッフの人員不足により、2023年度も会員や寄付集めまで手が回らず増加に至らず。

2 - 3 これまで手薄だった社会的事業の立ち上げ支援をはじめめる。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年	その後
社会的事業立ち上げ支援数	相談業務の一環として実施中	5件	1件 相談内容の精査が必要	☆3件 (プロボノマッチング含む)	0件	20件 事業承継含む	ハブ全体として毎年30件程度を支援する
内部伴奏スタッフの拡充 (コーディネータ人材)		新規3人	未着手	☆新規3人 (プロボノ登用含む)	新規3人	新規10人	当センタースタッフは全員伴奏ができる状態へ

事務局体制構築の遅れにより、プロボノマッチングには至らなかったが、年度をまたいでマッチングを進めている。コーディネータ人材の育成は、新規採用と既存職員への研修の機会を増やしている。

□目標3 市民の想いの伴奏ができる人材の育成体制の構築

[内部スタッフ向け]

3 - 1 価値規範に基づいた人材育成の指標をつくり、育成の体制を整える。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年	その後
育成体制整備	価値規範の整備が終了	育成指標の検討・評価軸の仮運用・採用の見直し	検討開始	☆育成指標の設定と仮運用開始	価値規範WSの開催、育成指標の仮設定	給与基準改定。育成と評価が連関するようにする	ジョブローテーションの実現

2022年度から継続的に理事陣と、そして管理職との検討を重ね、育成体制の整備を進めた。価値規範ワークショップの開催、そして育成指標の仮設定を進めた。

3 - 2 内部の情報共有体制を整備し、チームとして支援が出来るようにする。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年	その後
----	-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------	-----



情報共有体制	センター及び本部毎	情報共有PFの仮運用・組織内ケース会議実施	両施設の情報共有開始	☆ハブ事業内で組織外とのケース共有、チーム支援開始	ハブ事業内でケース共有を開始	左記の本格化	
--------	-----------	-----------------------	------------	---------------------------	----------------	--------	--

2023年度も施設間の情報共有の機会を増やした。プロジェクトベースで、ビジネスチャットを用いて情報共有の仕組みを運用している。また、ハブ事業内で両施設の知見を組み合わせて事業を実施し始めた。

3-3 外部で開催される研修・勉強会への参加支援を強化する。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年	その後
参加者数	延べ30人程度	30人	延べ44人	延べ50人	延べ48人	90人	スタッフ一人あたり年3回程度参加

スタッフの人員不足状態が続き、研修参加者数は若干目標数に達せず。

3-4 勤務形態を見直し、スタッフ自らも市民活動がしやすくする。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年	その後
就業規則改定	一部スタッフが活動中	課題点の洗い出しと小改訂	検討開始	☆改定案づくり	未着手	大規模改訂その2	継続的運用へ
給与改定				☆給与基準の検討	ベースアップ 2024年4月より		

就業規則改定は未着手。休眠預金活用事業の関連で就業規則を含めた各種書式を整える必要があるため、2024年度から随時進めていく。給与基準について、代表理事、副代表理事、常務理事で検討を進め、2024年4月分から基本給のベースアップを行った

[外部向け]

3-5 伴奏（コーディネーター）人材の育成支援を行う準備を整え、開始していく。

項目	2021年	2022年 目標	2022年 結果	2023年 目標	2023年 結果	2024年 目標	その後
育成講座の実施	外部研修に参加	講座の試行	検討段階	☆育成講座の試行	養成講座の実施	継続実施	
人材育成指標	価値規範のみ存在	指標案の作成	検討開始	指標案の運用	仮案策定 2024年度から運用開始		
内部伴奏スタッフの拡充（コーディネーター人材）		新規3人	未着手	☆新規3人（プロボノ登用含む）	新規2人採用 プロボノ採用なし	新規10人	当センタースタッフは全員伴奏ができる状態へ

外部からの 受講生				☆5人 (PF参加のNPO や企業等から 受入)	未実施	50人	
--------------	--	--	--	-----------------------------------	-----	-----	--

コーディネーター人材の養成講座を内部向けに実施。なお、養成講座に外部受講生を受け入れる段階に至らなかった。コーディネーター人材の採用は、スタッフ2名に留まった。

#### 〔成果〕

##### ① アウトリーチ体制の構築

アウトリーチ（施設の外に出て行うヒアリング）の体制が整い、アウトリーチ数は目標を上回った。中期計画が両施設の事業に反映されたことで、積極的に施設外に出て、団体の現状や課題感を数多く共有することができた。また、現場の臨場感をブログや新聞記事などで広く発信し、情報の活用も進んだ。

##### ② 情報交換会の「場」の拡がり

活動団体同士や関連機関が知り合う場として「ソーシャルハブ」を定期的に運営した。また、共催型の「場」の運営がはじまった。2023年度はヤングケアラーなどの比較的新しい社会課題をテーマとして開催するなど工夫が功を奏し、より多様な主体の参加が促された。

#### 〔課題〕

##### ① 現役社員が参加できる仕組みの構築

「場」に参加する主体者数は増えたものの、2023年度から強化してきた、現役社員の参加は期待より拡がらなかった。プロボノの活動に新たに参加する市民を増やすため、現役社員を狙った。その層に届ける広報戦略や場づくりの改善を行う。

##### ② 本部事業部門の強化

2023年度の途中に、ソーシャルハブ事業担当として2名を新規採用し、ソーシャルハブ事務局機能の強化が実現した。中期計画の実現および仙台市市民活動サポートセンターの次期指定管理に向けて、さらに本部事業部門の強化が必要である。

事業名	分類	(1) サポートセンター運用業務の進化	定款 第4条 (活動の種類と事業) 2項																																																															
	令和5年度	仙台市市民活動サポートセンター指定管理業務	(1) 人材の発掘と育成に係る事業 (2) 相談・コーディネート事業 (3) マネージメントサポート事業 (4) ネットワーキング事業 (5) 調査研究および政策提言事業 (6) 情報サポート事業																																																															
実施概要	<p>仙台市市民活動サポートセンター（以下、仙サポ）は、指定管理期間（令和2年度～6年度）の後半に入り、指定管理申請書で掲げた目標の「地域の問題が市民や関係機関との協働により可視化され、可視化された課題を解決できるプロジェクトが次々と生まれ、企業も含む多様な市民が課題解決に参画している状態」の実現へ向けて事業を実施した。</p> <p>1. 令和5年度施設運営（2023年4月1日～2024年3月31日）</p> <p>(1) 実績          総利用件数／人数 13,113件（前年度比109%）／41,819人（前年度比111%）          年間利用団体数 1,275団体（貸室・フリースペース705団体、相談858団体）          相談件数 1,101件（前年度比102%）うち活動相談438件（前年度比100%）</p> <p>(2) 概略          ○基本機能（施設利用、情報収集提供業務、相談機能）          ・利用件数・利用人数はコロナ禍前の令和元年度比で件数約8割、人数約7割まで回復。          ・ブログは訪問者数（ユニークユーザー）が前年度比96%の62,784件、閲覧数（ページビュー）が前年度比86%の796,061件とともに減少したが、X（エックス）のフォロワーは令和5年度末には1,190件と1年で300件近く増加した。          ・相談は活動相談が438件と、施設利用相談の362件を上回った。活動相談の半数は、市民活動団体からの相談で、次いで市民からの相談（137件）、企業（35件）、行政（34件）と続いた。市民活動団体からの相談は組織運営に関するものが約半数（111件）を占めた。</p> <p>2. 令和5年度事業運営</p> <p>(1) 実績</p>																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施事業</th> <th colspan="2"></th> <th>主な実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">情報収集提供事業</td> <td colspan="2">市民活動、協働等に関する情報収集提供業務全般</td> <td>情報受付 4,042件 (前年度比116%)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">機関誌『ぱれっと』の発行</td> <td>年12回発行</td> </tr> <tr> <td>市民ライターの育成</td> <td>地域メディア談話室、OtoHub 説明会ほか</td> <td>計16回 106人参加</td> </tr> <tr> <td colspan="2">NPO法人向け助成金情報メールマガジン</td> <td>登録者数 165件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">相談事業</td> <td colspan="2">アウトリーチ相談（市民活動団体の現場での相談等）</td> <td>相談件数 39件</td> </tr> <tr> <td colspan="2">協働現場の訪問・関係作り</td> <td>訪問件数 27件</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">人材育成事業</td> <td>支える市民を増やす</td> <td>いづいっちゃんねる</td> <td>2回 29人参加</td> </tr> <tr> <td>活動力強化講座</td> <td>協働ゼミ</td> <td>6回 31人参加</td> </tr> <tr> <td colspan="2">相談・事業参加者フォローアップ（後追い）</td> <td>137件で変化を確認</td> </tr> <tr> <td colspan="2">会計フォローアップ講座</td> <td>2回 9人参加</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ちょボラシアター・ちょっとボランティア</td> <td>計6回 53人参加</td> </tr> <tr> <td colspan="2">若者の人材育成に資する事業への協力</td> <td>3事業へ協力</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">協働に関する理解促進及び機会創出事業</td> <td>協働事例の発掘・理解促進</td> <td>協働の現場トーク</td> <td>2回 17人参加</td> </tr> <tr> <td>社会課題解決のプラットフォーム</td> <td>オンライン情報交換会</td> <td>11回 250人参加</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">調査研究事業</td> <td colspan="2">多様な主体の参加による協働体制の構築</td> <td>ミーティング 43回</td> </tr> <tr> <td colspan="2">企業ヒアリング</td> <td>17社</td> </tr> <tr> <td colspan="2">社会課題の調査分析（ソーシャルラボ）</td> <td>計4回 19人参加</td> </tr> <tr> <td colspan="2">調査報告会</td> <td>2回 15人参加</td> </tr> </tbody> </table>				実施事業			主な実績	情報収集提供事業	市民活動、協働等に関する情報収集提供業務全般		情報受付 4,042件 (前年度比116%)	機関誌『ぱれっと』の発行		年12回発行	市民ライターの育成	地域メディア談話室、OtoHub 説明会ほか	計16回 106人参加	NPO法人向け助成金情報メールマガジン		登録者数 165件	相談事業	アウトリーチ相談（市民活動団体の現場での相談等）		相談件数 39件	協働現場の訪問・関係作り		訪問件数 27件	人材育成事業	支える市民を増やす	いづいっちゃんねる	2回 29人参加	活動力強化講座	協働ゼミ	6回 31人参加	相談・事業参加者フォローアップ（後追い）		137件で変化を確認	会計フォローアップ講座		2回 9人参加	ちょボラシアター・ちょっとボランティア		計6回 53人参加	若者の人材育成に資する事業への協力		3事業へ協力	協働に関する理解促進及び機会創出事業	協働事例の発掘・理解促進	協働の現場トーク	2回 17人参加	社会課題解決のプラットフォーム	オンライン情報交換会	11回 250人参加	調査研究事業	多様な主体の参加による協働体制の構築		ミーティング 43回	企業ヒアリング		17社	社会課題の調査分析（ソーシャルラボ）		計4回 19人参加	調査報告会	
実施事業			主な実績																																																															
情報収集提供事業	市民活動、協働等に関する情報収集提供業務全般		情報受付 4,042件 (前年度比116%)																																																															
	機関誌『ぱれっと』の発行		年12回発行																																																															
	市民ライターの育成	地域メディア談話室、OtoHub 説明会ほか	計16回 106人参加																																																															
	NPO法人向け助成金情報メールマガジン		登録者数 165件																																																															
相談事業	アウトリーチ相談（市民活動団体の現場での相談等）		相談件数 39件																																																															
	協働現場の訪問・関係作り		訪問件数 27件																																																															
人材育成事業	支える市民を増やす	いづいっちゃんねる	2回 29人参加																																																															
	活動力強化講座	協働ゼミ	6回 31人参加																																																															
	相談・事業参加者フォローアップ（後追い）		137件で変化を確認																																																															
	会計フォローアップ講座		2回 9人参加																																																															
	ちょボラシアター・ちょっとボランティア		計6回 53人参加																																																															
	若者の人材育成に資する事業への協力		3事業へ協力																																																															
協働に関する理解促進及び機会創出事業	協働事例の発掘・理解促進	協働の現場トーク	2回 17人参加																																																															
	社会課題解決のプラットフォーム	オンライン情報交換会	11回 250人参加																																																															
調査研究事業	多様な主体の参加による協働体制の構築		ミーティング 43回																																																															
	企業ヒアリング		17社																																																															
	社会課題の調査分析（ソーシャルラボ）		計4回 19人参加																																																															
	調査報告会		2回 15人参加																																																															

実施概要	<p>(2) 概略</p> <p>①情報収集提供業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報取扱い件数は 4,042 件で前年度比 116%。チラシ・ポスター、ニューズレター、イベント掲示板いずれも取扱件数が増加した。前年度比は、チラシ 120%、ポスター121%、ニューズレター 104%、イベント掲示板 125%。市民活動団体のイベントや広報活動が活発になったことに加え、令和 2 年度に開始したイベント掲示板のサービスが市民活動団体に浸透してきた。</li> </ul> <p>②相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動相談が施設利用相談を上回った。活動相談の内訳では、組織運営に関する相談が 144 件に増加（前年度比 148%）。助成金など資金調達に関する相談、広報についての相談、任意団体から法人設立の相談の他、事務局の運営方法の相談、NPO 法人の解散の相談などもあった。</li> </ul> <p>③人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業のフォローアップでは、前年度の動画講座受講団体が団体の YouTube チャンネルを開設し、発信力が強化できた事例や、同じく前年度の「コトハジメ塾」受講者が、サポートセンターに相談しながら情報交換会を初めて開催した事例などが確認できた。</li> </ul> <p>④協働に関する理解促進及び機会創出事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブオンライン情報交換会（全 11 回開催）にのべ 250 人が参加。市民、市民活動団体、起業家、大学関係者、市議会議員、行政職員など、さまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。特に、初参加者が 94 人と、前年度の 2 倍以上になった。</li> </ul> <p>⑤調査研究事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題解決プラットフォーム「せんだい・みやぎソーシャルハブ」の事務局について協働による運営体制を継続。キーパーソンをつなぐ役割のコーディネーターの育成にも着手した。</li> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブとして企業ヒアリングを実施し、訪問やメールでのヒアリングなどを通し、17 社が取り組んでいる社会貢献事業や今後の展望などについてうかがった。今後の関係強化につなげていく。</li> </ul>
成果	<p>①相談対応</p> <p>年間利用団体数の内訳をみると、貸室・フリースペース705団体、相談858団体ということで施設利用団体数を相談利用団体数が上回った。相談の内訳では、活動相談が438件と施設利用相談の362件を上回っており、相談機能の周知が進んできたと考えられる。また、39件のアウトリーチ相談、27件の協働の現場訪問を行い、施設外へのアプローチも強化した。</p> <p>②相談・事業参加者のフォローアップ</p> <p>これまでの相談者・事業参加者のうち、継続対応を希望した人を対象に、電話などでの聞き取りを実施。56団体で計137件の新たな活動の変化が確認された。聞き取りを通して、新たな支援メニューにつながるなど、団体への伴走相談としても機能した。</p>
課題	<p>①市民活動の多様化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で減少した施設利用件数・施設利用者数は、コロナ禍前の 7 割～8 割程度まで回復したが、オンライン活用や活動手法の多様化に伴い、「場の提供」に対するニーズは上限が見えてきている。施設利用相談よりも活動相談の件数が上回ったことも、それを裏付けている。2021 年度まで増加が続いていたブログの訪問者数（ユニークユーザー）が 2022 年度から減少に転じ、2023 年度はさらに減少した。一方で、情報取扱件数は、イベント掲示板の利用増などによりコロナ禍以前を上回った。SNS の普及による若者の文字離れも言われている中、情報発信形態も多様化が進んでおり、社会の動向を注視して柔軟な対応が求められる。</li> </ul>
備考	<p>担当課：仙台市市民協働推進部市民協働推進課</p>

事業名	分類	(1)サポートセンター運用業務の深化	定款 第4条(活動の種類と事業)2項
	令和5年度 多賀城市市民活動サポートセンター管理運営業務		(1)人材の発掘と育成に係る事業 (2)相談・コーディネート事業 (3)マネジメントサポート事業 (4)ネットワーキング事業 (5)調査研究および政策提言事業 (6)情報サポート事業
目的	多賀城市との協働により、市民活動支援を中心に幅広い地域づくりの促進を目的とする公共施設の運営を通して、多賀城市を中心とした地域における市民活動の発展と活性化を図り、市民自治を強化する。		
実施概要	<p>多賀城市市民活動サポートセンター(以下、TSC)は2008年6月開館。市民活動の拠点施設として、NPOや自治会・町内会、生涯学習団体等による地域づくりをサポートしている。令和5～7年度3年間業務委託の1年目にあたる。</p> <p>●令和5～7年度施設運営方針</p> <p>○目指す多賀城のまちの姿 “ベッドタウンからホームタウンへ” 自分が住むまちに自分が関わることで、さらに魅力的なまちにしていける、そんな実感を持てる機会をTSCが増していくことで、主体としての市民を多賀城のまちに増やしていく。</p> <p>○TSCの役割と取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちをともに創る人を増やす</li> <li>・既存の仕組みの支援から関わりしるを増やす支援の強化</li> <li>・新たな地域の担い手発掘・育成の継続</li> </ul> <p>●令和5年度の主なトピック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○次世代の地域の担い手を発掘し、地域とのつながりを創出</li> <li>○未来志向で考える、対話する場を創出</li> <li>○地域の多様な取り組みを可視化</li> <li>○新型コロナウイルス感染症5類移行</li> </ul> <p>【利用者数等】</p> <p>総利用件数 5,293件(前年度比103.5%) 総利用人数 25,874人(前年度比119.1%)  相談件数 342件(前年度比93.4%)  →前年度に比べ、利用人数が増えている。印刷機利用件数や情報揭示受付件数が増加していることから、新型コロナウイルス5類移行により、人数等の制限なく活動している状況といえる。新型コロナウイルス感染症の影響をあまり受けていない平成31年度の利用者数とほぼ同じであり、利用が戻っている状況である。</p> <p>【事業実施状況】</p> <p>77本の企画を実施し、のべ1,694人、324団体が参加(共催含む)</p> <p>(1)まちをともに創る人を増やす事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①TSC運営への市民参画機会創出事業 自治会・町内会、市民活動団体・当事者、福祉、教育、事業者のキーパーソンを対象に「たがさぼ市民ミーティング」を実施。</li> <li>②多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業 「暮らしやすいまちを考える」をテーマに「多賀城フューチャーセッション」を実施。</li> </ul> <p>(2)関わりしるを増やす支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業 情報交換会、防災人ミーティングに加え、みらい自治トークを開催。地域学を1地区で実施。活動をヒアリングし情報蓄積とブログで発信。幼保施設と地域の避難訓練を3地区で実施。</li> </ul> <p>(3)新たな地域の担い手発掘・育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①次世代活躍事業 小学生を対象とした「雑貨市きつず講座」を開催し、クリスマス雑貨市にあそびのブースで出展。中学校・高校と地域の活動のコーディネートを実施。若者対象に「きっかけのきっかけトーク」実施。</li> <li>②市民参画促進事業</li> </ul>		

	<p>クリスマス雑貨市、市内イベントへのおでかけミニ雑貨市、図書館でのワークショップを実施。NPO いちから塾は、通常版に加え、相談件数の多かった「保護猫・地域猫」をテーマに実施。ボランティア入門講座の希望者には、現場体験もできるよう実施した。</p> <p>(4)NPO支援事業</p> <p>①NPOつながり支援事業 事務用ブースインキュベート相談会、広報・資金講座、Web相談会、NPO交流会実施。ボランティア情報を収集・発信。</p> <p>(5)情報発信事業</p> <p>①フリーペーパー「tag」発行/情報発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A3-2つ折り、2カ月に1回発行。デザインリニューアル。</li> <li>・YouTube チャンネルで団体紹介、事業内容からの情報提供等の動画 4 本公開。</li> </ul>
成果	<p>(1)まちをともに創る人を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たがさぽ市民ミーティング」を通して、自治会・町内会、市民活動団体・当事者の声から、TSCに求められている役割を見出すことができた。出た意見の中からすぐ実践できることにも取り組んだ。また、福祉、教育、事業者の声から、分野やセクターを越えた連携の必要性を再確認することができた。</li> <li>・「多賀城フューチャーセッション」では、幅広い年代による意見交換の中から共通点を見出し、実践に向けた動きを生み出すことができた。</li> <li>・市主催「Taga 懇」への運営協力を通して、行政への要望だけでなく、市民自らが地域づくりに関わることのきっかけとなる場づくりを継続して行った。</li> </ul> <p>(2)既存の仕組みの支援から関わりしるを増やす支援の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会・町内会を対象にした、お互いの取り組み・アイデアの共有を行う情報交換会の実施や、各地区の取り組みを取材し、ブログで紹介することで、担い手不足などの運営課題解決のきっかけを提供した。</li> <li>・これまでは現在の課題の共有やアイデア出しを中心に行ってきたが、今年度初めてこれからの地域の在り方を考えるきっかけの場を試行したり、情報交換会やイベントに 40 代以下の若い人の参加も見られるなど、新たな動きをつくることができた。</li> <li>・前年度から実施している防災人ミーティングの参加者が、幼保施設と地域の避難訓練への参加や多賀城中学校のプレ文化祭に出展する等、参加の幅が広がった。</li> </ul> <p>(3)新たな地域の担い手発掘・育成の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボランティア入門講座」は座学だけでなく、活動体験の機会も提供し、市民活動に関わる人材を増やすことができた。「NPOいちから塾」には市の創業支援事業参加者も参加し、市全体として地域の担い手育成となった。</li> <li>・クリスマス雑貨市では、中・高・大学生を含む 24 名と「きつずボランティア講座」の参加者 18 名がボランティアとして活動し、今後も活動したいとの声が寄せられ、活動に一步踏み出す場の提供ができた。また、学校と市民活動団体等をつなぐ機会も増え、学生が地域に関わるきっかけを提供できた。</li> <li>・相談対応の実績から「保護猫・地域猫」をテーマに実施した「NPOいちから塾」では、受講後にイベント参加や情報収集など、アクションを起こす人を生み出した。</li> <li>・「きっかけのきっかけのトーク」では、10 代、20 代の参加が多く、参加後に「何か始めてみたい」と思った若年層からの相談対応につながった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在的活動者や他セクターなど話し合いの場への参加の輪を広げていくため、プログラムや広報等に更なる工夫が必要。</li> <li>・持続可能な地域運営のためにも、地域を開いていくこと、多様な人や団体、企業などの多セクターが関わられる取り組みを生み出すようなアプローチを継続していく。</li> <li>・次世代の担い手育成では、自分の想いをもとにアクションを考えるとところまで進むことができなかった。市民活動・地域活動に興味を持ち、自ら参加したいという若い層を掘り起こし、自発的に参加する若者を増やす取り組みを継続する。</li> </ul>
備考	<p>詳細は、ウェブサイト【<a href="https://www.tagasapo.org/">https://www.tagasapo.org/</a>】に掲載している報告書をご確認ください。</p> <p>担当課：多賀城市総務部地域コミュニティ課</p>

事業名	分類	(1)サポートセンター運用業務の深化	定款 第4条(活動の種類と事業)2項 (1)人材の発掘・育成に係る事業 (2)相談・コーディネート事業 (3)マネジメントサポート事業 (4)ネットワーキング事業 (5)調査研究および政策提言事業 (6)情報サポート事業
	令和4年度 岩沼市市民活動サポートセンター運営支援事業		
目的	岩沼市市民活動サポートセンターの運営支援を行い、市民の参画による協働のまちづくりを推進する。		
実施概要	市民活動サポートセンターの運営についての相談員派遣、市民向け講座を実施した。		
	<p>1. 相談運営支援業務</p> <p>(1)市民活動相談会(年11回実施)</p> <p>年間5件の市民、団体からの相談に対応。相談内容は、立ち上げ相談、メンバーの高齢化・後継者についての相談、企業からの市民向けイベント実施について等。</p> <p>(2)講座・団体交流会</p> <p>①はじめての市民活動講座 日時:令和5年7月14日(金)13時半～14時半 会場:いわぬま市民交流プラザ多目的室</p> <p>②市民活動登録団体交流会:進行、質疑への助言 日時:令和5年10月13日(金)13時半～15時半 会場:いわぬま市民交流プラザ多目的室</p> <p>③はじめての市民活動講座「岩沼市の市民活動団体を知ってみよう！」 日時:令和6年2月9日(金)13時半～14時半 会場:いわぬま市民交流プラザ多目的室</p> <p>(3)その他</p> <p>①岩沼市市民活動助成金説明会:出席 日時:令和5年4月14日(金)13時半～14時半 会場:いわぬま市民交流プラザ多目的室</p> <p>②『いわサポ通信』:「教えて、相談員さんコーナー」への原稿寄稿 第20号「活動を伝えるチラシ作り」、第21号「会費と助成金」、第22号「活動経費」、第23号「活動休止・解散」</p> <p>2. サポートセンタースタッフ研修</p> <p>①令和5年9月22日(金)13時半～14時半 見やすい・利用したい・伝わりやすい情報提示と発信</p> <p>②令和6年3月8日(金)13時半～15時半 令和5年度担当事業のふり振り返り・評価など</p> <p>3. サポートセンター関係者打合せ</p> <p>岩沼市市民活動サポートセンターの定例打合せへ年11回出席し、サポートセンターの運営について以下の、助言・情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動の範囲・とらえ方。「第三の居場所となっていることに公共性がある」との考え方があること</li> <li>スピリチュアル系のイベントチラシについて、営利・非営利の判断への注意喚起</li> <li>市民活動助成金の改定案についての助言</li> <li>相談対応の例として、助成金に頼らない自立した資金調達のためにどのような方法があるか</li> <li>助成金申請に必要な推薦状を作成する際の基準、布教活動の可能性がある場合の対応方法など</li> <li>ホームページへの市民活動団体イベント情報の掲載について、仙台市市民活動サポートセンターの「市民活動イベント掲示板」の事例を紹介</li> <li>12月の寄付月間について情報提供</li> <li>高齢者団体について運営のヒント</li> <li>社会問題について広く学ぶ市民活動団体の利用については、政治活動につながる可能性もあるため、定期的に活動内容などをヒアリングすることや、選挙期間中などは、念のため選挙・政治目的では利用できないことを再確認することで市民活動以外の利用を抑止できることなど。</li> </ul>		
成果	はじめての市民活動講座「岩沼市の市民活動団体を知ってみよう！」の参加者4人中、2人が活動の立ち上げや、ボランティア参加の相談につながり、他1人を希望する市民活動へ紹介。講座が、活動立ち上げやボランティア参加につながった。		
課題	市民活動相談会の相談件数が少ない。はじめての市民活動講座「岩沼市の市民活動団体を知ってみよう！」のように、相談・コーディネートにつながるような仕掛けが必要。		
備考	担当課:岩沼市さわやか市政推進課		



事業名	分類	(2) 地域課題の発掘と解決に向けた具体的な活動の推進	定款 第4条 (活動の種類と事業) 2項
		社会課題の解決策を多セクターで共創するプラットフォームの機能強化	(2) 相談・コーディネート事業
目的	<p>[2年後] 課題を行政に押し付けず、困難を抱える当事者が解決に向けて声を挙げ、市民が主体的に解決に取り組めるプラットフォームを仙台圏で確立する/この仕組みを他都市圏に移行することで、中間支援団体をハブに課題解決プラットフォームが誕生する/本取り組みを支えるプロボノ、個人・企業会員が増え、事務局が自立できる目処が立つ</p> <p>[5年後] 課題解決を続け、実践ノウハウを構築し、社会課題の早期発見と多セクターによる予防的取り組みが確立され、事業や制度として地域に実装される</p> <p>[最終的に] 市民主導の課題発見と解決ができる(市民社会の実現)</p>		
実施概要	<p>[経緯] 「せんだい・みやぎソーシャルハブ」として、2020年5月にフェイスブックに情報交換用のグループページを立ち上げ、継続的にコロナ禍の情報共有や支援策、そして、コロナ禍で明らかになった社会課題の検討を進めた。情報交換会の運営が安定化、そこで顕在化してきた社会問題について、新たに実験・実践・提案を試みる「レジデンスラボ」の施行を始めた。運営は、一般社団法人パーソナルサポートセンター、特定非営利活動法人都市デザインワークス、当センターの3団体が連携して行っている。</p> <p>1. 多セクター参画による課題解決ラボの運営(ロードマップ作成)</p> <p><b>【実施目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民、企業、支援団体、行政、大学のうち3つ以上のセクターが参画しロードマップ作成を行い、課題の可視化と課題解決手法の提案を行う</li> <li>事業全体で30名のプロボノ参画を実現する</li> </ul> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>①居住支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロードマップの公開(2023年4月1日~4月30日) 仙台市市民活動サポートセンター1階マチノワひろばにて、作成したロードマップを展示。市民から意見を集めた。</li> <li>事例勉強会(2023年7月10日19:00-20:30) 講師:千年建設株式会社 代表取締役社長 岡本拓也氏 ロードマップのバージョンアップへ向けて、母子向け居住支援の取り組みについて、事例を学んだ。 参加者:8名(講師1名、行政1名、市民活動団体2名、まちづくりNPOスタッフ1名、当法人より3名)</li> <li>ラボメンバーでの情報交換・勉強会(2023年10月19日19:00-21:00) 昨今の居住支援の全国的な動きや、それぞれの現場での支援ケースを共有した。また居住支援団体と他分野の団体とのネットワークングの方法、地域住民の参画の可能性、中間支援のあり方などを議論した。参加者:5名(市民活動団体3名、まちづくりNPOスタッフ1名、当法人より1名)</li> <li>②地域自治</li> <li>第1回勉強会(2024年2月13日18:00-19:30) ロードマップ作成へ向け、現状の課題共有を行った。 参加者:5名(行政1名、市民1名、まちづくりNPOスタッフ1名、当法人より2名)</li> </ul> <p>2. 企業と社会貢献活動のマッチング</p> <p><b>【実施目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仙台市内を中心に20社をヒアリング。うち5社が新規に本事業へ参画する</li> </ul> <p><b>【実施内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>せんだい・みやぎソーシャルハブのnoteにプロボノ募集記事を掲載(2023年9月8日)。記事を見て問い合わせのあった企業(情報通信業)にヒアリングを実施した結果、企業としてプロボノ派遣を検討することとなり、団体とマッチングした。</li> <li>SENDAI SDGs Expo2023 訪問(2023年11月24日) 参加企業4社にヒアリング実施</li> <li>個別訪問ヒアリング13社(実施期間2024年1月12日~3月29日) ※1社は電話およびメールでのヒアリング</li> </ul>		





実施概要	<p>3, 課題解決に伴走するコーディネーターの育成</p> <p><b>【実施目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 職員やプロボノ等 10 名を対象に全 5 回の研修会を実施する</li> <li>・ロードマップ作成補助に研修受講者が加わり実践経験を重ねる</li> <li>・次年度には研修受講者から 3 名がロードマップ作成コーディネートの中核を担う</li> </ul> <p><b>【実施内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 回目 2023 年 12 月 6 日 (内部研修)、参加者 2 名 講師:NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター 渡邊一馬 内容:コーディネーター業務の基礎について セッションとラボ及びプロボノコーディネートとのつながりについて理解を深めた。</li> <li>・2 回目 2024 年 2 月 28 日 (外部研修)、参加者 2 名 内容:東北チャレンジコミュニティ主催の地域コーディネーター勉強会に参加 地域内の課題に地域外の人材をどのようにつなぐのかについて、実例を元に解説を受けた。</li> <li>・3 回目 2024 年 3 月 5 日 (外部研修)、参加者 2 名 講師:NPO 法人 ETIC 瀬沼希望さん 内容:プロボノコーディネートの導入として、プロボノ導入を考えている団体をゲストに迎えヒアリング実施とプロジェクト立案を行った。</li> <li>・4 回目 2024 年 3 月 15 日 (OJT 研修)、参加者 6 名+アドバイザー1 名(渡邊一馬) 内容:3 回目の研修でヒアリングした団体のプロボノプロジェクトについて仮案をもとにブラッシュアップを行った。</li> <li>・5 回目 2024 年 3 月 29 日 (OJT 研修)、参加者 5 名+アドバイザー1 名(渡邊一馬) 内容:4 回目の研修でブラッシュアップしたプロボノプロジェクトを、3 月 26 日に団体へ説明。そこでの打ち合わせを元に再度つくったプロジェクトをブラッシュアップした。</li> </ul> <p>4. 課題解決の参加者を増やすための情報発信</p> <p><b>【実施目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌を発行して情報発信することで、支援団体や企業、行政から課題に関する相談が 10 件以上持ち込まれる</li> <li>・ホームページなどからプロボノ希望者 10 名の参加申し込みがある</li> </ul> <p><b>【実施内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブの note で事業の進捗を発信</li> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブの情報発信を担うプロボノを募集。 2 名のプロボノとホームページを含めた情報発信について検討し、せんだい・みやぎソーシャルハブのホームページ(HP)を作成(2024 年 3 月 31 日公開)</li> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブのリーフレット用のデザインを作成</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>▼ note の QR コード</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>▼ HP の QR コード</p>  </div> </div>
	成果
備考	<p>自主事業 仙台市市民活動サポートセンター「協働に関する理解促進及び機械創出事業」「調査研究事業」との連携 助成:日本財団 事業名「社会課題の解決策を多セクターで共創するプラットフォームの機能強化」</p>

事業名	分類	(2) 地域課題の発掘と解決に向けた具体的な活動の推進	定款 第4条 (活動の種類と事業) 2項 (4) ネットワーキング事業 (5) 調査研究および政策提言事業
	1. みんなみんファンド 2. 物品提供		
目的	地域のNPOが必要とするさまざまな経営資源を企業・各種団体・市民など社会一般から集め、それをNPOに仲介・提供することでNPOを支援し、地域の活性化を図る。また、資源提供を通して、企業とNPOの新しい関係を作り、地域社会に対する参加を促進する。		
実施概要	1. みんなみんファンド ・株式会社日専連ライフサービスより、NPOカードの拠出金よりご寄付(79,388円)をいただいた。 2. 物品提供 ・2023年度の寄贈プログラムへの協力は、当方の都合により見送った。		
成果			
課題	・みんなみんファンドの今後の運用に関して、継続検討。		
備考	1. 提供元 : 株式会社日専連ライフサービス(寄付)		


事業名	分類 (2) 地域課題の発掘と解決に向けた具体的な活動の推進	定款 第4条 (活動の種類と事業) 2項 (4) ネットワーキング事業 (5) 調査研究および政策提言事業
実施概要	<p>他団体との連携による政策提言に関する事業</p> <p>全国のNPO支援センターとの連携のもと、政策提言に関する情報交換や進捗状況の共有など行っている。展開に応じて宮城県内、東北ブロックなど連携して推進している。</p> <p>○NPO法人会計基準協議会</p> <p>○NPOの法制度等改革推進会議</p> <p>○民間NPO支援センター・将来を展望する会 (CEO会議)</p> <p>・第41回開催 ※出席          日時: 2023年4月18日(火) 9:30~16:30          会場: 県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま 501・502 会議室          議題: 話題提供①: 市民社会提言書「C7 コミュニケ」内容紹介と今後のプロセス          話題提供_ひろしまNPOセンター 松原 裕樹          G7 市民社会コアリション 2023 共同事務局          国際協力 NGO センター Think Lobby 堀内 葵          話題提供②: みんなの市民サミット 経緯とアウトプットの報告          報告: ひろしまNPOセンター 松原 裕樹          話題提供③: みんなの市民サミット 分科会 17          「日本における格差の原因と正体を探る NPO・市民活動の現場からの考察」          報告: 岡山NPOセンター 石原 達也          参加者からの所感共有: みんなの市民サミットを通じて感じた論点、議論の感想/C7 コミュニケの内容について          論点整理: C7 や市民サミットから出た論点/意見交換をしたい点          グループに分かれてディスカッション: 論点にそった共同アクションの提案          小グループの議論を全体共有: 情報共有、情報提供、告知/次回 CEO 会議について</p> <p>・第42回開催 ※欠席          日時: 2024年1月29日(月) 13:30~17:30、1月30日(火) 09:30~16:00          会場: 公益財団法人 仏教伝道協会 8F「和」会議室</p> <p>・NPOと行政の協働タスクチーム          2022年7月に開催されたCEO会議において、「協働」が近年後退・形骸化しているのではないかと、それを立て直すにはどうすればいいかという問題意識から議論を重ねてきた。          協働制度チーム/政策協働チーム/支援組織チームを編成し、問題意識の共有、事例研究など行ってきた。          [中間報告会]          本年度末までに提言とともにアクションプランをまとめようと始まったディスカッションで、あらたに浮かび上がってきた現状や課題について、中間段階での報告会をオープンに開催することで、問題意識の共有やさらなる今後のアクションプランへの意見交換をした。          開催概要          日時: 2023年10月16日(月) 19:00-21:00          開催形式: オンライン (Zoom ミーティング)          対象: 全国のNPO支援センター、非営利団体、行政職員など、          NPOと行政の協働について関心のある方はどなたでも          参加費: 無料          主催: 民間NPO支援センター将来を展望する会 (CEO 会議)、NPOと行政の協働タスクチーム</p>	

事業名	分類	(2)地域課題の発掘と解決に向けた具体的活動の推進	定款 第4条(活動の種類と事業)2項 (1)人材の発掘・育成に係る事業 (2)相談・コーディネート事業 (3)マネジメントサポート事業 (4)ネットワーキング事業
	他団体との連携事業		
実施概要	1. 「みやぎソーシャルビジネス支援ネットワーク」への参画 宮城県内における地域課題の解決、東日本大震災からの復興等に取り組むNPO等へのサポートの充実を図ることを目的として、株式会社日本政策金融公庫 国民生活事業ほか全7機関は、2017年8月23日「みやぎソーシャルビジネス支援ネットワーク」を構築。当センターも構成団体として参画している。2023年度の参集の機会は特になかった。 〔構成機関〕 宮城県、仙台市、東北税理士会宮城県支部連合会、宮城県行政書士会、認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる、当センター、株式会社日本政策金融公庫国民生活事業(仙台支店第一事業、仙台支店第二事業、石巻支店、一関支店)		
	2. みやぎ広域支援団体連絡担当者会議への参画 東日本大震災により沿岸市町を中心に支援活動を行っている団体の実務担当者による会議体。月1回開催。地域や分野ごとに異なる課題を共有し、県域課題の全体像を把握するなど情報共有等を行っている。当センターは、2017年より参加。2023年度も毎月参加した。 〔構成団体〕 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会、みやぎ心のケアセンター、一般社団法人みやぎ連携復興センター、認定特定非営利活動法人地星社、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)、一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター、当センター オブザーバー: 宮城復興局、復興庁、その他適時参加団体あり		
	3. 防災・減災円卓会議への参画 「同じ犠牲を繰り返さない」「同じ混乱と苦悩を繰り返さない」ために自治体、研究機関、民間組織、企業、報道機関などが広く参加する会議。2018年度より例会へ参加。2023年度は会議へ参加はなかった。		
	4. 東北におけるNPO支援センター等による情報交換等 ○東北6県NPO支援センター情報交換会 東北労働金庫の助成事業をきっかけに、東北のNPO支援組織による情報交換会を継続している。2023年度は、秋田県で開催している「あきたNPO会議」(主催:同実行委員会)の企画協力を行った。NPO法施行25年をふりかえりつつ、東北のNPOのこれまでのこれからを展望した。また、自然災害時の連携についても情報交換を行った。 日時:2023年10月14日11:00~14:00 会場:メイン会場 秋田県ゆとり生活創造センター「遊学館」、 サテライト会場 北部市民活動サポートセンター、南部市民活動サポートセンター 主催:あきたNPO会議実行委員会/NPO法人秋田県北NPO支援センター、 NPO法人あきたパートナーシップ、NPO法人秋田県南NPOセンター)、秋田県 企画協力:認定NPO法人あおもりNPOサポートセンター、NPO法人いわてNPOフォーラム21 NPO法人山形公益活動を応援する会・アミル、認定NPO法人杜の伝言板ゆるる、当センター、 認定NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター  ○NPOサポートリンク 復興の先を見据えた連携による市民活動支援体制の構築に向けて2018年度より活動を始めたネットワーク。岩手、宮城、福島 の 県 域、市町村域を超えた支援組織のネットワーク化により、より質の高いNPO支援が継続し、地域復興の支え手となることを目的として発足。2023年度は、オンラインによる情報交換を2回開催し、実施の協力をおこなった。  ○中間支援機能に関する研究会「(公財)トヨタ財団2022年度イニシアティブプログラム助成事業」 事務局:東北圏地域づくりコンソーシアム、代表:櫻井常矢(高崎経済大学地域政策学部 教授) ※研究会をふまえて、内容に関して書籍された。 「地域コミュニティ支援が拓く 協働型社会 地方から発信する中間支援の新展開」櫻井常矢編著		

事業名	分類	(2)地域課題の発掘と解決に向けた具体の活動の推進	定款 第4条(活動の種類と事業)2項
	他団体との連携事業		(1)人材の発掘・育成に係る事業 (2)相談・コーディネート事業 (3)マネジメントサポート事業 (4)ネットワーキング事業
実施概要	1. 令和5年度宮城県内における被災者支援コーディネート事業 宮城県内におけるコーディネート業務		
	<p>[目的]</p> <p>東日本大震災で被災した宮城県全域において、東日本大震災に伴う避難生活の長期化や、災害公営住宅等への移転など、被災者を取り巻く生活環境が変化し、多様化している。「被災者が一日も早く安定的でより良い日常生活を送ることができる」状況の獲得を目指し、復興の主体である被災者や被災者支援に取り組む多様な担い手(自治体・支援組織・企業等)による活動の推進を総合的に支援する。コーディネーターを設置し、本業務のより良い推進を図る。</p> <p>[内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)被災者支援に取り組む多様な担い手の現状・課題の把握・整理             <ol style="list-style-type: none"> <li>①被災者支援に取り組む多様な担い手(被災者・自治体・支援組織・企業等)への訪問・ヒアリング・連絡会議への参加等を通じた、現状・課題・ニーズ等の把握・抽出</li> <li>②上記において把握したニーズの整理 等</li> </ol> </li> <li>2)被災者支援体制の構築・強化に向けたコーディネートの実施             <p>ニーズとリソースのマッチング、サービス・社会資源の提供や必要な場づくり、講師・アドバイザー派遣の実施や研修会等への参加誘導、フォローなど、地域内の新たな活動主体の掘り起こし等、コーディネートの実施</p> </li> <li>3)事業推進に係る各種ミーティングへの参加             <p>構成団体会議/全体ミーティング/担当エリアミーティング等</p> </li> <li>4)業務報告(月1回)             <p>「案件シート」「月次報告書(月1回)」他、必要に応じて本事業に係る記録の作成。</p> </li> </ol> <p>[エリア担当]</p> <p>宮城県内を下記の4エリアに設定。当センターは③エリアを分担し、エリアコーディネーターのサポートを行った。また、多賀城市、仙台市の市民活動サポートセンターは協力機関として、エリアコーディネーターへの情報提供や活動相談を担った。</p> <p>①気仙沼、南三陸、登米                      ②石巻、女川、東松島 ③多賀城、塩釜、七ヶ浜、松島、仙台      ④名取、岩沼、亘理、山元、丸森</p> <p>[構成団体]</p> <p>認定特定非営利活動法人地星社、一般社団法人みやぎ連絡復興センター(申請主体)、当センター</p>		
	<p>2. 東日本大震災の教訓を活かした宮城県域のマルチセクター災害対応ネットワークの構築事業</p> <p>[目的]</p> <p>宮城県域における自治体域とセクターを超えた協働体制の構築により、大規模災害への対応能力の向上と、1組織、1団体では解決困難な地域課題に対して、マルチセクターで解決のアプローチを行うことである。定期的に多様なセクターで、地域資源や地域課題を共有し、課題の本質や解決へのアプローチを分析する。共通課題への対応能力を高める勉強会を共同開催するなどし、住民主体の課題解決をサポートする支援者の活動をサポートし、企画運営する広域支援団体間の信頼関係と連携の実績を積み上げる。</p> <p>[実施内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 定例会議の開催             <p>定例会議は、12回開催。</p> <p>勉強会企画ワーキングチームを別日にオンラインや対面で行った。</p> </li> <li>② 勉強会の開催             <p>勉強会の実施主体を「みやぎ災害対応円卓会議(通称:みやまる)」として3回開催。</p> </li> </ol> <p>[実施体制]</p> <p>社会福祉法人宮城県社会福祉協議会、みやぎ心のケアセンター、一般社団法人みやぎ連携復興センター、認定特定非営利活動法人地星社、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)、一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター、個人、当センター(申請事務局) ※オブザーバー:宮城復興局、復興庁</p>		

実施概要	<p>[勉強会の概要]</p> <p>□第1回 日 時:令和5年9月6日(水)18:30～20:30          テーマ:災害対応の前提をまなぶ          災害で顕在化する社会の脆弱性～東日本大震災と女性～          話題提供:NPO 法人イコールネット仙台 常務理事 宗片恵美子氏          参加数:13名(会場18名、オンライン5名)</p> <p>□第2回 日 時:令和5年10月26日(木)15:00～17:00          テーマ:災害対応の事例をまなぶ          多様な主体の連携による経験と知見の共有とネットワークのあり方          話題提供:宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課 震災伝承班          参加数:20名(会場14名、オンライン6名)</p> <p>□第3回 日 時:令和5年12月6日(水)18:30～20:30          テーマ:災害対応の実践をまなぶ          クロスロードカードゲームを用いて宮城の災害対応を学ぶ          進 行:わしん倶楽部 田中勢子氏          コメンテーター:NPO 法人イコールネット仙台 常務理事 宗片恵美子氏          参加数:19名(会場15名、オンライン4名)</p>
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委託元:復興庁</li> <li>2. 助成:宮城県共同募金会「参加と協働による新たな地域共生社会づくり支援事業」</li> </ol>

事業名	分類	(2) 地域課題の発掘と解決に向けた具体的な活動の推進	定款 第4条 (活動の種類と事業) 2項
	他団体との連携事業		(1) 人材の発掘・育成に係る事業 (2) 相談・コーディネート事業 (3) マネジメントサポート事業 (4) ネットワーキング事業
実施概要	<p>1. 市民と社会のこれからを考える2Days「私たちはどう生きるか?～加藤哲夫さんの宿題を考える～」</p> <p>〔目的〕 当センターの元代表理事で、長年仙台をベースにNPOや環境、社会活動のリーダーとして活躍した加藤哲夫氏の13回忌に合わせ、生前に加藤氏が書いたもの、話したこと、心に残っていることを改めて持ち寄り、残された「宿題」を確認するとともに、これからそれぞれがその宿題に取り組むための「視点」を持つことを目的に開催。これからの市民社会のあり方をともに考える機会とした。</p> <p>〔内容〕</p> <p>○セッション1「2011年の覚醒はどこへ～東日本大震災で社会は変わったのか～」 日時:8月25日(金) 18:30～21:00 ゲスト:高橋敏彦(前北上市長)／高橋由佳(イシノマキ・ファーム)／高橋美加子(北洋舎クリーニング) コメンテーター:菅野拓(大阪公立大学)・／進行:渡邊一馬(せんだい・みやぎ NPO センター) 参加数:51名</p> <p>○セッション2「加藤哲夫とNPO～市民、自治、民主主義～」 日時:8月26日(土) 9:30～12:00 ゲスト:川崎あや(元アリスセンター事務局長)／福井大輔(未来企画)／青木ユカリ(せんだいみやぎ NPO センター) コメンテーター:川中大輔(シチズンシップ共育企画)／進行:赤澤清孝(大谷大学) 参加数:51名</p> <p>○セッション3「これからの『市民の仕事』～加藤哲夫の宿題～」 日時:8月26日(土) 13:30～16:00 ゲスト:白川由利枝(地域創造基金さなぶり)／葛巻徹(みちのく復興・地域デザインセンター)／前野久美子(book cafe 火星の庭) コメンテーター:長谷川公一(尚綱学院大)／進行:田村太郎(ダイバーシティ研究所) 参加数:50名</p> <p>〔主催〕 「カタツムリの宿題を考える会」 世話人:青木ユカリ、赤澤清孝、川中大輔、白川由利枝、田村太郎、渡邊一馬 問い合わせ担当:当センター</p> <p>〔関連企画〕 展示による、イベント告知と「宿題」を考える参考情報の発信を行った。 『市民と社会のこれからを考えるための30Days「私たちはどう生きるか?～加藤哲夫さんの宿題を考える～」予習復習編』として、加藤氏の歩みをまとめたパネルや加藤氏手書きの図、加藤氏ゆかりの人物にインタビューした冊子、加藤氏の資料を保存した「加藤哲夫デジタルアーカイブ」K-MUSEUMの目録集などを展示。 会場:仙台市市民活動サポートセンター 1F マチノワひろば 期間:2023年8月1日(火)～8月31日(木) ※8月9日(水)・23日(水)は休館日</p>		
	備考		

事業名	分類	(4)情報発信事業	定款 第4条(活動の種類と事業) 2項 (6) 情報サポート事業														
	1. ニュースレター「みんな」 2. 書籍販売部みんな堂 3. ウェブ系情報発信(ホームページ、ブログ、X(ツイッター)、フェイスブック) 4. 河北新報夕刊「志民の輪」への執筆・監修																
目的	1. センター概要と実施事業の進捗、成果について、会員や全国の中間支援組織などに伝える。 2. 本事業に加え、NPOセクターの動き、宮城県域での動きなどを市民へ伝える。																
	<p>1. ニュースレター「みんな」 2020 年度から発行を再開(A4両面2ページ)。担当スタッフが企画・執筆調整・編集等を行い、他スタッフや理事が執筆を分担する体制。配布対象は、当センター会員、仙台市市民活動サポートセンター、多賀城市市民活動サポートセンター等。発行部数は300部。郵送の他、PDF版のメール送付も行っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>発行日</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>123</td> <td>2023年 4月28日</td> <td>・巻頭言「決意と挑戦を誓う春」 ・第25回 通常総会のお知らせ ・事業報告 せんだい・みやぎソーシャルハブ 2022 年度報告 ・インフォメーション 仙台サポセン「ちょボラシアター+ちょボラ」開催のお知らせ/多賀城サポセン「TSR 報告書第3弾」発行のお知らせ</td> </tr> <tr> <td>124</td> <td>7月31日</td> <td>・巻頭言「多様性を認め合う社会へ」 ・インフォメーション 市民と社会のこれからを考える 2Days「私たちはどう生きるか? ~加藤哲夫さんの宿題を考える~」開催のお知らせ ・報告 第25回通常総会が終了しました ・事業報告 せんだい・みやぎソーシャルハブ「私たちの知らない世界。」シリーズ</td> </tr> <tr> <td>125</td> <td>10月31日</td> <td>・巻頭言「節目を迎え、ともに考えたいこと」 ・インフォメーション 2023 年度第3回みやぎ災害対応円卓会議(みやまる)勉強会のお知らせ ・イベント開催報告 市民と社会のこれからを考える 2Days「私たちはどう生きるか? ~加藤哲夫さんの宿題を考える~」</td> </tr> <tr> <td>126</td> <td>2024年 1月29日</td> <td>・巻頭言「つながりの力」 ・インフォメーション せんだい・みやぎソーシャルハブ 2月情報交換会のお知らせ ・事業報告 みやまる勉強会 2023 年度報告 ・インフォメーション 仙台/多賀城サポセン YouTube 紹介</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 書籍販売部みんな堂 11種の書籍を取り扱っている。新刊の仕入れは行わなかった。</p> <p>3. ウェブ系情報発信(ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブック) ①ホームページ: 当法人主催および協力イベント情報やお知らせ。 ②ブログ: 基本的に団体のフロー情報を掲載。リニューアル後、未活用のまま。 ③フェイスブック: 講座やイベントの現在進行形の情報提供。メインターゲットは、フェイスブックユーザーとそのネットワーク。河北新報夕刊「志民の輪」への掲載内容の紹介や、事業等の情報を随時投稿した。投稿数は35。 ④X(ツイッター): ブログやホームページへの誘導ツール。2023年8月運用再開。</p> <p>4. 河北新報夕刊「志民の輪」への執筆・監修 2019年4月より、河北新報夕刊月曜版に「志民の輪」が始まり、当センターと認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆると隔週で担当している。 掲載内容は、特集記事「とびらを開く」では課題の見える化を、オピニオン「わたしの視点から」では、活動者や実践者の目線からの問題提起や読者への参加の呼びかけを、イベント・話題「ふみだす info」では読者の参加を促す情報を提供する3つのコーナー。「とびらを開く」は、河北新報 ONLINE から見ることができる。 編集体制は、理事・スタッフ、外部協力者の2名のチームで分担。半年1クールとして、体制を見直しながら取り組んでいる。</p> <p>□ 2023年4月10日～2024年3月25日 : 23回掲載</p> <p style="text-align: center;">河北新報 ONLINE【ニュース】志民の輪「とびらを開く」の QR コード➡</p> <div style="text-align: right;">  </div>			No.	発行日	主な内容	123	2023年 4月28日	・巻頭言「決意と挑戦を誓う春」 ・第25回 通常総会のお知らせ ・事業報告 せんだい・みやぎソーシャルハブ 2022 年度報告 ・インフォメーション 仙台サポセン「ちょボラシアター+ちょボラ」開催のお知らせ/多賀城サポセン「TSR 報告書第3弾」発行のお知らせ	124	7月31日	・巻頭言「多様性を認め合う社会へ」 ・インフォメーション 市民と社会のこれからを考える 2Days「私たちはどう生きるか? ~加藤哲夫さんの宿題を考える~」開催のお知らせ ・報告 第25回通常総会が終了しました ・事業報告 せんだい・みやぎソーシャルハブ「私たちの知らない世界。」シリーズ	125	10月31日	・巻頭言「節目を迎え、ともに考えたいこと」 ・インフォメーション 2023 年度第3回みやぎ災害対応円卓会議(みやまる)勉強会のお知らせ ・イベント開催報告 市民と社会のこれからを考える 2Days「私たちはどう生きるか? ~加藤哲夫さんの宿題を考える~」	126	2024年 1月29日
No.	発行日	主な内容															
123	2023年 4月28日	・巻頭言「決意と挑戦を誓う春」 ・第25回 通常総会のお知らせ ・事業報告 せんだい・みやぎソーシャルハブ 2022 年度報告 ・インフォメーション 仙台サポセン「ちょボラシアター+ちょボラ」開催のお知らせ/多賀城サポセン「TSR 報告書第3弾」発行のお知らせ															
124	7月31日	・巻頭言「多様性を認め合う社会へ」 ・インフォメーション 市民と社会のこれからを考える 2Days「私たちはどう生きるか? ~加藤哲夫さんの宿題を考える~」開催のお知らせ ・報告 第25回通常総会が終了しました ・事業報告 せんだい・みやぎソーシャルハブ「私たちの知らない世界。」シリーズ															
125	10月31日	・巻頭言「節目を迎え、ともに考えたいこと」 ・インフォメーション 2023 年度第3回みやぎ災害対応円卓会議(みやまる)勉強会のお知らせ ・イベント開催報告 市民と社会のこれからを考える 2Days「私たちはどう生きるか? ~加藤哲夫さんの宿題を考える~」															
126	2024年 1月29日	・巻頭言「つながりの力」 ・インフォメーション せんだい・みやぎソーシャルハブ 2月情報交換会のお知らせ ・事業報告 みやまる勉強会 2023 年度報告 ・インフォメーション 仙台/多賀城サポセン YouTube 紹介															
実施概要																	



実施概要

掲載日	とびらを開く	わたしの視点から お名前/ご所属・役職(敬称略)	ふみだす info
2023 4/10	平和が郷土芸能守る 仙台すずめ踊り	命を支え合う地域づくりを 大石春美 穂波の郷クリニック 緩和ケア支援センター はるかセンター長	・戦争の悲哀を伝える ・水辺は楽しい遊び場 ・子どものホスピスを
4/24	広がる貧困 食で支援 NPO 法人フードバンク仙台	中高生に寄り添う伴走を 成宮崇史 NPO 法人 底上げ 理事	・上映ノハウ学ぼう ・被災トルコに支援金 ・「にゅっ展」力貸して
5/8	宇宙の学び 子どもに Tohoku Spece Community	挑戦するプロセスが重要 布田剛 認定NPO法人地星社 代表理事	・ITスキル上げよう ・山歩きで自然楽しむ ・夜の定禪寺通を演出
5/22	演劇の力で災害支援 国境なき劇団	子どもホスピスを宮城に 佐藤千鶴子 宮城子どもホスピスプロジェクト 代表	・勉強を一緒にしよう ・子どもの遊び山盛り ・巨理を盛り上げたい
6/5	(とびらを開く 拡大版) 更生 企業が包括支援 日本財団職観プロジェクト宮城支部	—	・華やか衣装 街と共演 ・食を通じ地域と交流 ・親と子のコンサート
6/19	子育てを通じ交流育む ゆるっとナチュラル育児の会	音楽と人をつなぐ場に 和田菜水子 市民団体MUSIC HUB PROJECT 発起人	・発達障がい学ぼう ・卓球でリハビリ運動 ・町内会の情報交換会
7/3	孤立させず 共に断酒 AA仙台若林グループ	波板を次の世代へつなぐ 古田康祐 石巻市雄勝町波板地区住民	・産後ドゥーラ 知って ・集団活動 進め方学ぶ ・子育てサポート講座
7/24	交流通じて悩み共有 Infinity〜宮城リトルベビーサークル〜	農作業 楽しみいろいろ 久保田歩 こよみのあしおと 代表	・日本語教室で教えて ・DVからの回復学ぶ ・市民手作りの音楽祭
8/7	(とびらを開く 拡大版) 家族ケア 社会で支え ヤングケアラーの現状学ぶ情報交換会	—	・子どもと外遊び実践 ・環境日本一目指そう ・腎臓病の早期発見を
8/21	ゲームを通じ防災教育 わしん倶楽部	発達障害 サポートで成長 渡辺桂子 NPO 法人 フレーム・ラボ 代表	・子どもの声を聴こう ・海辺の森を育てよう ・誰でも OK の公募展
9/4	(とびらを開く 拡大版) サブカル世界感じて Studio Soda Sendai	—	・舞台芸術 体験しよう ・白熱 テーブルゲーム ・「きょうだい」支援を
9/25	手話で絵本を楽しむ 読み聞かせグループ「まほうの手」	心の復興を支える居場所に 鈴木智子 NPO 法人のさり 理事長	・ダウン症 歩いて啓発 ・「見えない障害」学ぶ ・地域支庫つなぎ 50 年
10/16	(とびらを開く 拡大版) 音楽は生きる力の源 視覚障害者の佐藤利枝子さん・厚さん夫妻	—	・秋と歴史 歩いて満喫 ・語り聞かせの世界へ ・井土の秋を楽しもう
10/30	防災に多様な視点を NPO法人イコールネット仙台	「チャレンジ」持ち寄ろう 足立岬 気仙沼まち大学運営協議会 地域おこし協力隊	・男女平等 活動 20 周年 ・手話×音楽×ダンス ・多様な性 尊重しよう
11/13	(とびらを開く 拡大版) エイズ検査拡大に力 community center ZEL	—	・アート通じ心ケアを ・自主制作本 展示販売 ・買い物して社会貢献
11/27	企業・団体 3者に利点 従業員ボランティア活用説明会	人をつなぎ地元愛を醸成 大村昇 宮城県美里町地域おこし協力隊	・仙石線踏切跡たどる ・宇宙人から見た地球 ・不登校支援を考える
12/11	(とびらを開く 拡大版) 環境問題 本質考える 海洋プラスチックごみからアクセサリー	—	・生活の不安・困りごと ・遺言作成の基礎知識 ・災害時役立つテレビ
12/25	(とびらを開く 拡大版) 生きる光 仲間と共有 すい臓がん患者と家族のおしゃべりサロン ぶどうの木	—	・労働法で身を守ろう ・新春にジャズを堪能 ・聴覚障害と舞台芸術
2024 1/22	(とびらを開く 拡大版) 市民のアイデア続々 多賀城創建 1300 年 盛り上げヘシンポ	—	・互いに学び支え合う ・パレスチナに平和を ・障害者の自立へ理解
2/5	(とびらを開く 拡大版) 自分を整理 悩み共有 共生社会コンファレンスから	—	・青葉山の未来考える ・ウクライナ文化体験 ・カード通じ防災学ぶ
2/26	東日本大震災 13 年(とびらを開く 拡大版) 音楽通じ住民が交流 仙台・高砂「平日フェス」ファイナル	—	・加害者家族支援 探る ・農村留学 参加しよう ・「つなかん」歩み記録
3/11	東日本大震災 13 年(とびらを開く 拡大版) 被災地の日常を発信 工藤寛之さんの写真展 仙台・17 日まで	—	・宇宙の魅力に触れて ・新感覚 朗読も音楽も ・單身女性の防災探る
3/25	(とびらを開く 拡大版) 町の「宝」発掘 題材に 利府町民劇団ありのみ	—	・「森の案内人」を養成 ・手話仲間をつくらう ・多様なダンス 一堂に

**成果** ・ウェブ系情報発信においては、内容に応じてツールを連動して発信に努めた。  
 ・河北新報夕刊「志民の輪」へ情報掲載した団体から、夕刊を見てのリアクションがあったとの感想や連絡をいただいた。

**課題** ・PR戦略検討後の計画への落とし込みと体制の見直し  
 ・ウェブサイトのリニューアルの検討 ・編集体制の補強

**備考** 自主事業

## II. 講師派遣・各種委員会等

### ■講師派遣等

2023年度に講師派遣を行った主な講座・研修会は以下のとおりです。

内容	主催	開催地	開催日	担当
Taga懇「多賀城未来の懇談会」	多賀城市 総務部地域コミュニティ課	多賀城市	5月27日 7月22日 11月18日 11月30日 2024年 1月25日	中津
令和5年度学びを支える人材育成推進事業 「生涯学習【応用】研修～広報企画研修～」	仙台市生涯学習支援センター	仙台市	9月14日	小田嶋
令和5年度岩沼市協働に関する職員研修会	岩沼市 さわやか市政推進課	岩沼市	10月4日	太田
多賀城創建1300年記念歴史シンポジウム ～多賀城碑の歴史的価値を考える～	多賀城碑の歴史的価値を考える歴史シンポジウム実行委員会	多賀城市	11月18日	中津
協働に関する職員研修会	名取市 市民協働課	名取市	12月1日	太田

### ■各種委員会等

2023年度に委嘱等を受けた主な委員会は以下のとおりです。

委員会名	主催	任期	担当
みやぎNPO情報公開システム運用協議会 運営委員会委員	みやぎNPO情報公開システム運用協議会 事務局	2023年4月1日～ 2024年3月31日	渡邊
宮城県民間非営利活動促進委員会 委員	宮城県 共同参画社会推進課	2021年12月1日～ 2023年11月30日 2023年12月1日～ 2025年11月30日	青木
宮城県民間非営利活動促進委員会 拠点部会委員	宮城県 共同参画社会推進課	2022年2月1日～ 2023年11月30日 2024年5月9日～ 2025年11月30日	青木
宮城県民間非営利活動促進委員会 管理運営計画策定部会委員	宮城県 共同参画社会推進課	2024年1年31日～9月30日	青木
宮城県地域包括ケア推進協議会 コミュニティ・生活支援専門委員会	宮城県 長寿社会政策課	2017年4月1日～	青木
宮城県国土利用計画審議会 委員	宮城県 企画部地域振興課	2023年4月1日～ 2026年3月31日	青木
みやぎボランティア総合センター 運営委員会 委員	社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会	2022年6月15日～ 2024年3月31日	青木
寄附金配分事業審査会 外部審査員	社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会	2023年10月23日～ 2026年3月31日	青木
仙台市市民協働事業提案制度 プロジェクト検討会	仙台市 市民協働推進課	2016年4月1日～	青木
仙台市環境審議会 委員	仙台市 環境局環境部環境企画課	2022年4月1日～ 2024年3月31日	青木
仙台市市民文化事業団 理事	公益財団法人 仙台市市民文化事業団	2022年6月21日～ 2024年度定時評議員会	青木
仙台市共同募金委員会 運営委員	社会福祉法人 仙台市共同募金委員会	2022年4月1日～ 2024年3月31日	青木
名取市協働事業審査会 委員	名取市 男女共同・市民参画推進室	2022年4月1日～ 2024年3月31日	青木
東北ろうきん復興支援助成金制度 選考委員会 選考委員	東北労働金庫	2016年10月27日～	青木



委員会名	主催	任期	担当
2023 年度全労済地域貢献助成事業審査委員会 審査委員	こくみん共済 coop <全労済>	任期なし	青木
宮城県民間非営利プラザ運営評議会委員	特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる	2019 年4月1日～ 2025 年3月 31 日	青木
公益財団法人地域創造資金さなぶり評議員	公益財団法人 地域創造資金さなぶり	2020 年度事業に関する定時評議員会終結時後～ 2023 年度事業に関する定時評議員会終結時まで	青木
公益財団法人仙台市建設公社評議員	公益財団法人 仙台市建設公社	2020 年度事業に関する定時評議員会終結時後～ 2024 年度事業に関する定時評議員会終結時まで	青木
公益財団法人仙台市健康福祉事業団理事	公益財団法人 仙台市健康福祉事業団	2023 年 6 月 22 日～2025 年定時評議員会終結の日まで	青木
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 評議員	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)	2023 年 9 月 28 日～第 17 期以後の役員が選任される 2027 年第 17 期第 1 回評議員会終了のときまで	青木
赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金(ボラサポ)」審査委員会 委員	社会福祉法人 中央共同募金会	2023 年4月1日～ 2025 年 3 月 31 日	青木
せんだいまなびやネットワーク事業・連携協議会	特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン	事業開始～2024 年 3 月 31 日	青木
みやぎ生活福祉活動助成金審査委員	みやぎ生活協同組合	2022 年 3 月 21 日～ 2024 年 3 月 20 日	青木
仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会委員	仙台市 文化スポーツ部文化振興課	2023 年 3 月 28 日～ 2024 年 1 月解散の日まで	青木
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に係る審査委員会 審査委員	環境省東北地方環境事務所 環境対策課	2023 年 3 月	青木
EPO東北パートナーシップ団体	東北環境パートナーシップオフィス (EPO東北)	任期なし	青木 太田
令和6年度緑の活動団体検討会議アドバイザー	仙台市 建設局百年の杜推進課	2024 年 2 月 1 日	太田
仙台市民活動サポートセンター事務用ブース審査委員	仙台市 市民協働推進課	任期なし	太田
仙台市社会福祉協議会評議員	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会	2021 年6月 24 日～ 2024 年度に関する定時評議員会の終結の時まで	太田
いわぬま市民交流プラザ運営協議会委員	岩沼市 総務部さわやか市政推進課	2023 年4月1日～ 2025 年3月 31 日	太田
杜の都の市民環境教育・学習推進会議委員	杜の都の市民環境教育・学習推進会議	2022 年5月 24 日～ 2024 年5月 23 日	太田
若者版・市民協働事業提案制度審査委員	仙台市 市民局市民協働推進課	任期なし	太田
みやぎNPOプラザ事務室使用団体選考審査会 選考委員	特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる	2023 年 8 月 24 日、2024 年 3 月 14 日	太田 中津
多賀城市環境審議会委員	多賀城市 都市産業部環境施設課	2023 年 3 月 20 日～ 2025 年 3 月 19 日	中津
多賀城市地域福祉活動計画推進委員	社会福祉法人 多賀城市社会福祉協議会	2021 年 11 月 17 日～	中津
多賀城市創業支援事業ビジネスプランコンテスト 審査員	多賀城市 都市産業部産業振興課	2024 年 2 月 18 日	中津
仙台市民文化事業団助成事業 2023 年度文化芸術の創造・発信助成事業 審査員	公益財団法人 仙台市民文化事業団	任期なし	松村
仙台市民文化事業団助成事業 事業モニター	公益財団法人 仙台市民文化事業団	2023 年 11 月 30 日～ 2024 年3月 31 日	松村
公益財団法人仙台観光国際協会市民国際交流事業補助金審査会 審査員	公益財団法人 仙台観光国際協会	2023 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日	松村

### Ⅲ. 法人の運営に関する事項

#### (1) 通常総会の開催

##### 第25回通常総会

日時：2023年6月17日（土）14：00～15：30

会場：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

出席者数：出席15名、委任状17名 書面評決6名 合計36名

（定足数は、正会員の過半数。正会員数54名）

議 事：第1号議案 2022年度事業報告書（案）及び決算報告書（案）の承認

第2号議案 2023年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の審議・決定

#### (2) 理事会の開催

年度内回数	通算回数	日時	主な内容
1	262	2023年 5月10日（水）	2022年度事業報告、収支決算案、2023年事業計画、収支予算案について 決算賞与について、会員入退会について、通常総会について、その他、報告事項
2	253	6月17日（土）	会員入退会者の承認、通常総会議事内容の確認
—	—	10月4日（水）	「理事情報交換会」として近況等情報交換や意見交換をおこなった。

※2024年3月31日現在／理事・監事・顧問・参与（順不同、敬称略）

代表理事（1名）：渡邊一馬

副代表理事（2名）：高橋由佳 原亮

理 事（5名）：大滝精一 石井山竜平 齋藤和人 福井大輔 青木ユカリ（常務理事）

監 事（3名）：沼倉雅枝 長谷川公一 茂木宏友

顧 問（2名）：川村志厚 山田晴義

参 与（1名）：江崎正彰

#### (3) 評議員会

規約の見直し、候補者の検討を行ったが交渉までには至らず、開催を見送った。

#### (4) 会員について

2023年3月期：会員数 81人・団体

2024年3月期：会員数 74人・団体

(5) 事務局について

① 人員体制 (2024年3月31日現在)

○せんだい・みやぎNPOセンター本部事務局 (仙台市青葉区国分町)

代表理事：渡邊一馬

事務局長：青木ユカリ

派遣職員：1名

○仙台市市民活動サポートセンター (仙台市青葉区一番町)

センター長：太田貴

副センター長：菅野祥子、松村翔子

常勤職員：7名

非常勤職員：6名

シアター業務委託スタッフ：3名

○多賀城市市民活動サポートセンター (多賀城市中央)

センター長：中津涼子

副センター長：川口葉子

常勤職員：6名

非常勤職員：4名

② 会議

<管理職会議>毎月1回程度

参加者：代表理事、常務理事・事務局長、サポートセンター正副センター長

内容：本部、サポートセンター業務や事業における情報共有、事業や運営に関する事項の検討など

実施：毎週火曜日開催、12回実施した。

2023年4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日、

10月17日、11月21日、12月19日、2024年1月16日、2月20日、3月19日

<センター会議>

参加者：全職員、代表理事、事務局長

内容：価値規範の進捗の確認、新中期計画策定に伴うワークショップ、情報共有など

実施：水曜開催、7回実施した。

2023年4月26日、6月28日、8月23日、9月27日、10月25日、12月27日、

2024年2月28日

※その他、各拠点において全体ミーティング、ケースミーティング、班およびチームミーティング、所管課との四半期ミーティングを開催した。



## <スタッフ面談>

参加者：常務理事、事務局長、職員

内容：2回開催した。その他、個別状況に応じて常務理事、事務局長、サポートセンター正副センター長と職員との面談を重ねて対応した。

2023年7月24日～8月21日：新年度体制に関すること

2024年1月5日～1月15日：次年度に向けての意向確認等

## (6) 職員研修

外部研修への参加を促した。新型コロナウイルス禍を経て、オンライン併用の開催が浸透し、参加の調整がしやすくなった一方で、参加者同士の交流などは難しい側面もあった。目的によって現地参加・オンライン参加の使い分けが必要と感じている。

研修名	主催	日程	参加
2023 春 WEB シンポジウム 「春の助成金応募シーズン到来プログラムの狙いを理解して提案力を高めよう」	NPO支援財団研究会	4月27日(木)	1名
基礎から学べる！NPO法人設立講座	みやぎNPOプラザ	5月20日(木)	1名
労働者協同組合法オンライン研修	仙台市市民活動サポートセンター	5月24日(水)	1名
NPO・NGOの組織基盤強化のためのワークショップ2023	NPO法人日本NPOセンター	5月25日(木) 6月9日(金)	2名
あたたかい場をつくるオンラインファシリテート講座	NPO法人杜の伝言板ゆるる	6月22日(木)	1名
ボランティアウェブ説明会	公益社団法人日本フィランソロピー協会	6月23日(金)	1名
NPO支援センター初任者研修	NPO法人日本NPOセンター	8月1日(水) 23日(水)9月 6日(水)	3名
協働教育研修会議	多賀城市生涯学習課	8月4日(金)	2名
NPO/NGO「支援力」応援プログラム 現場の声から学ぶ！組織診断サポート研修	NPO法人日本NPOセンター	8月8日(火) 18日(金)	2名
令和5年度地域づくり担当職員研修	仙台市地域政策課	8月30日(水)	1名
NPOと行政の対話フォーラム 多様な主体との協働で誰も取り残さない地域をつくる	NPO法人日本NPOセンター	8月31日(土)	1名
NPO支援財団研究会2023秋 WEB シンポジウム 「秋の助成金応募シーズン到来。プログラムの狙いを理解して提案力を高めよう！」	NPO支援財団研究会	9月22日(金)	1名
NPOのためのリーダーシップ & チームマネジメント講座	みやぎNPOプラザ	10月05日(木)	2名
町内会のスペシャリストが語る、 町内会の存在意義と課題、解決事例について	公益社団法人塩釜青年会議所	10月14日(土)	2名

研修名	主催	日程	参加
令和5年度第1回ボランティアコーディネーター研修	宮城県社会福祉協議会	10月20日(金)	1名
相談力ブラッシュアップ講座	東京ボランティア・市民活動センター	10月31日(火)	1名
NPO支援センター研修 「NPO支援に効果的な事業企画の作り方」	みやぎNPOプラザ	11月9日(木)	3名
2023 企業の社会貢献・CSR セミナー	仙台市社会福祉協議会	11月10日(金)	1名
防災リーダー研修	一般社団法人Bird's eye	11月16日(木)	3名
ボランティアコーディネーター研修	宮城県社会福祉協議会	12月8日(金)	1名
NPOのための税金基礎講座	みやぎNPOプラザ	12月15日(金)	1名
どうする？ 官民連携	みやぎNPOプラザ	2024年 1月20日(土)	1名
NPOの世代交代と事業継承を考える	みやぎNPOプラザ	1月21日(日)	1名
NPO支援施設フォローアップ事業人材育成研修 「NPOと地域の『つなぎ手』となるために」	みやぎNPOプラザ	2月15日(木) 16日(金)	3名
市民の参加と協働を進めるコーディネーション 研究集会2024	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会	2月23日(金) 24日(土)	2名

#### IV. 2023 年度 決算報告書

- 活動計算書
- 貸借対照表
- 財産目録
- 計算書類の注記、事業費の内訳
- 監査報告書



活動計算書

令和 5年 4月 1日 から令和 6年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

(単位：円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	290,000		
賛助会員受取会費	60,000	350,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	1,507,057	1,507,057	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	3,011,689	3,011,689	
4. 事業収益			
事業収入	3,189,847		
仙台市S C指定管理	91,687,805		
多賀城市S C委託	39,688,187	134,565,839	
5. その他収益			
受取利息	536		
雑収入	9,741	10,277	
経常収益計			139,444,862
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	76,405,436		
法定福利費	12,094,860		
通勤費	3,472,914		
福利厚生費	280,350		
人件費計	92,253,560		
(2) その他経費			
期首棚卸高	49,581		
合計	49,581		
期末棚卸高	△ 48,998		
売上原価	583		
業務委託費	7,470,829		
諸謝金	1,254,426		
印刷製本費	2,041,523		
打合会議費	168,456		
旅費交通費	447,423		
車両費	19,317		
通信運搬費	2,282,687		
消耗品費	1,875,049		
広告宣伝費	132,045		
保守・修繕費	1,563,229		
水道光熱管理費	11,216,091		
地代家賃	1,854,240		
減価償却費	275,901		
保険料	49,820		
諸会費	106,900		
租税公課	105,100		
支払手数料	265,284		
資料収集費	225,341		
外注費	1,342,727		
リース代	3,134,673		
会場費	103,562		
スタッフ研修費	77,634		
雑費	166,834		
その他経費計	36,179,674		
事業費計		128,433,234	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	129,096		
法定福利費	14,625		
人件費計	143,721		
(2) その他経費			
打合会議費	1,978		
旅費交通費	273		
通信運搬費	16,136		
水道光熱管理費	12,093		

活動計算書

令和 5年 4月 1日 から令和 6年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

(単位：円)

科 目	金 額		
地代家賃	84,960		
支払手数料	5,685		
会場費	8,728		
その他経費計	129,853		
管理費計		273,574	
経常費用計			128,706,808
当期経常増減額			10,738,054
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			10,738,054
法人税、住民税及び事業税			355,900
当期正味財産増減額			10,382,154
前期繰越正味財産額			47,802,058
次期繰越正味財産額			58,184,212

貸借対照表

令和 6年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	68,750,895	
未収金	11,804,150	
棚卸資産	48,998	
前払費用	141,526	
立替金	486,120	
流動資産合計		81,231,689
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品	1	
リース資産	3,586,715	
有形固定資産計	3,586,716	
(2) 無形固定資産		
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
敷金	849,600	
長期前払費用	7,380	
投資その他の資産計	856,980	
固定資産合計		4,443,696
資産合計		85,675,385
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	10,969,914	
未払消費税等	2,394,800	
未払法人税等	355,900	
賞与引当金	7,064,576	
預り金	3,236,730	
流動負債合計		24,021,920
2. 固定負債		
長期未払金	3,469,253	
固定負債合計		3,469,253
負債合計		27,491,173
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		47,802,058
当期正味財産増減額		10,382,154
正味財産合計		58,184,212
負債及び正味財産合計		85,675,385

財 産 目 録

令和 6年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
【流動資産】		
(現金)		
本部	250,503	
仙台CS	66,824	
多賀城SC/コピー機	57,430	
多賀城SC	80,820	
(現金) 計	455,577	
(預金)		
仙台銀行/中央通支店 普通預金	20,848,206	
仙台銀行/中央通支店 普通預金	42,154,719	
仙台銀行/中央通支店 普通預金	100	
社の都信用金庫/中央支店 普通預金	64,411	
東北労働金庫/本店 普通預金	258,640	
東北労働金庫/本店 普通預金	2,047,552	
(預金) 計	65,373,628	
(郵便)		
郵便振替	2,921,690	
(郵便) 計	2,921,690	
(未収金)		
多賀城市市民活動センター運営等業務委託料1～3月分	10,914,250	
その他	889,900	
(未収金) 計	11,804,150	
(棚卸資産)		
書籍	48,998	
(棚卸資産) 計	48,998	
(前払費用)		
㈱ラクスライトクラウド/プラスチック利用料2024.4-2025.3他	141,526	
(前払費用) 計	141,526	
(立替金)		
概算雇用保険料他	486,120	
(立替金) 計	486,120	
流動資産 合計	81,231,639	
【固定資産】		
(有形固定資産)		
什器備品	1	
リース資産	3,586,715	
(有形固定資産) 計	3,586,716	
(投資その他の資産)		
敷金	849,600	
長期前払費用		
あいおいニッセイ同和損害保険㈱/長期火災保険	7,380	
(投資その他の資産) 計	856,980	
固定資産 合計	4,443,696	
資産の部 合計		85,675,385
<b>II 負債の部</b>		
【流動負債】		
(未払金)		
人件費	3,855,952	
社会保険料	2,574,984	
水道光熱費	1,111,773	
その他	3,427,205	
(未払金) 計	10,969,914	
(未払消費税等)	2,394,800	
(未払法人税等)	355,900	
(賞与引当金)	7,064,576	
(預り金)		
報酬源泉所得税	15,485	
雇用保険料	449,406	
みんなん本体ファンド	2,511,505	
仙台SC利用者コピー料金回収	57,430	
あじさい基金	202,904	
(預り金) 計	3,236,730	
流動負債 合計	24,021,920	
【固定負債】		
(長期未払金)		
三井住友トラストバナネックファイナンス/本部複合機旧契約解約時損害金	79,790	
三井住友トラストバナネックファイナンス/本部複合機 (ORHIS)	3,389,463	
(長期未払金) 計	3,469,253	
固定負債 合計	3,469,253	
負債の部 合計		27,491,173
正味財産		58,184,212

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

・有形固定資産

定額法を採用しております。

・リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を0とする定額法を採用しています。

(3) 引当金の計上基準

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しております。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

2. 事業費の内訳

事業費の区分は別表の通りです。

3. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	1,777,140	0	0	1,777,140	△ 1,777,139	1
リース資産		3,862,616	0	3,862,616	△ 275,901	3,586,715
合計	1,777,140	0	0	1,777,140	△ 1,777,139	3,586,716

## 別紙

## 事業費の内訳

(単位:円)

	定款 (1)	定款 (2)	定款 (3)	定款 (4)	定款 (5)	定款 (6)	定款 (7)	事業費合計
	人材の発掘・育成	相談とコーディネ	マネージメントサ	ネットワーキング	調査研究及び政	情報サポート	施設運営	
従事者の人数(実施した人数)	8	15	8	5	5	10	38	89
受益対象者の範囲	県内・隣接県の居住者	県内・隣接県の居住者	県内・隣接県の居住者	県内・隣接県の居住者	県内・隣接県の居住者	県内・隣接県の居住者	主に仙台・多賀城の市民	
受益対象者の人数	500	700	700	700	600	70,000	100,000	173,200
給料手当	438,194	1,547,550	222,240	444,480	88,896	407,413	73,256,663	76,405,436
法定福利費	71,954	113,228	36,553	73,107	14,622	67,663	11,717,733	12,094,860
通勤費							3,472,914	3,472,914
福利厚生費							280,350	280,350
人件費計	510,148	1,660,778	258,793	517,587	103,518	475,076	88,727,660	92,253,560
売上原価								0
業務委託費	0	947,819	0	68,454	0	0	6,454,556	7,470,829
諸謝金	0	0	0	46,363	0	144,061	1,064,002	1,254,426
印刷製本費	0	0	0	34,164	0	0	2,007,359	2,041,523
打合会議費	0	0	0	0	0	0	168,456	168,456
旅費交通費	11,428	80,923	2,018	141,142	0	4,629	207,283	447,423
車両費	3,380	0	0	612	0	0	15,325	19,317
通信運搬費	0	0	0	69,090	0	34,728	2,178,869	2,282,687
消耗品費	836	0	0	200	0	110	1,873,903	1,875,049
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	132,045	132,045
保守・修繕費	0	0	0	0	0	0	1,563,229	1,563,229
水道光熱管理費	4,031	4,031	4,031	4,031	4,031	4,028	11,191,908	11,216,091
地代家賃	28,320	28,320	28,320	28,320	28,320	28,320	1,684,320	1,854,240
減価償却費	0	0	0	0	0	0	275,901	275,901
保険料	0	0	0	0	0	0	49,820	49,820
諸会費	0	0	0	0	0	0	106,900	106,900
租税公課	200	0	0	0	0	0	104,900	105,100
支払手数料	2,440	10,140	2,440	3,540	2,440	2,690	241,594	265,284
資料収集費	0	0	0	0	0	164	225,177	225,341
外注費	0	840,000	0	0	0	0	502,727	1,342,727
リース代	0	0	0	60,000	0	0	3,074,673	3,134,673
会場費	0	2,909	0	79,419	5,818	1,091	14,325	103,562
スタッフ研修費	0	0	0	15,454	0	0	62,180	77,634
雑費	0	0	0	0	0	60,000	106,834	166,834
その他経費計	50,635	1,914,142	36,809	550,789	40,609	279,821	33,306,286	36,179,091
事業費合計	560,783	3,574,920	295,602	1,068,376	144,127	754,897	122,033,946	128,432,651

## 2023 年度 監査報告書


特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター  
代表理事 渡 邊 一 馬 様

私は、特定非営利活動促進法第 18 条の規定に基づき、2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターの決算について監査を行いました。

監査の方法として、重要な会議の議事録その他重要書類を閲覧するほか、理事から事業の報告を聴取し、合理的な保障を得るための手続きを実施いたしました。

監査の結果、2023 年度の特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターの決算については適正なものと認めます。

2024 年 5 月 31 日

監 事 長谷川 公一 

監 事 茂 木 宏 友 

監 事 沼 倉 雅 稔 

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町1-8-10 大和ビル4F

TEL 022-264-1281 FAX 022-264-1209

URL <http://www.minmin.org> E-mail [minmin@minmin.org](mailto:minmin@minmin.org)





特定非営利活動法人  
せんだい・みやぎNPOセンター